

令和7年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標 I 【 県総合計画等に沿った教育内容の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
○農業振興に貢献する優れた農業者等を育成するため、県総合計画に沿って経営者マインドの醸成に向けた経営実践プロジェクト学習に取り組んでいる。農学科では、利益を確保するための価格設定や販売方法を検討するとともに、新たな販売先を模索している。また、園芸学科では対象品目を選定し、学生に消費者ニーズに沿った品種選定、栽培管理、販売といった一連の流れを経験させている。これらの取り組みにより、経営感覚を養っている。	○1年次学生は価格設定や販売、コストへの意識などが十分とはいえないため、教育を通じて経営者マインドを身に着けさせる。	経営者マインドの向上 経営者マインドの向上した学生割合 100%
○農業の現場では、農業所得の向上を目指してドローンや環境制御装置など ICT 技術の導入を推進していることから、学生に新技術等の知識を習得させるため、農機メーカー等と協力して専攻実習の時間に機械の実演会等を実施するカリキュラムを取り入れている。 ○就農・就職した際に GAP 分野でも即戦力となる人材や、将来的には GAP を取り入れた持続的かつ効率的な農場運営で儲かる農業を実現できる農業経営者の育成を目指して、ASIAGAP 基準に沿った教育を行っている。 ○SDGs や環境に対する関心が国内外で高まり、国において「みどりの食料システム戦略」が策定されるなど、農業において環境との調和や持続性の取り組みが求められる中、県では有機農業の推進に力を入れている。	○新技術や新たな取り組みに関する知識を習得するための教育をさらに充実させる。 ○GAP の継続認証による実践を伴った教育を続けていく。 ○県の施策の方向性を鑑み有機農業に関する教育を続けていく。	新技術や新たな取組に関する教育の充実 ICT 研修会開催 延べ13回以上 ASIAGAP (JGAP に移行) の継続認証 4品目 有機農業に関する特別講義開催 2回

2 評価項目別の評価及び次年度の課題

(1) 経営者マインドの向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
経営者マインドの向上した学生割合 100%	B	将来農業経営を行っていく際に栽培技術だけでなく経営管理が大切になるとの意識が向上したと回答した学生の割合は98%であり、学生の経営者マインドを向上させることができた。 学生への、今後の農業経営を行う上で必要な項目を問うアンケートでは、事業目標に次いで事業計画、原価計算やコスト意識、販売価格の設定が重要と回答するなど、経営管理に関する意識を向上させることができた。	達成度の評価基準と照らすとB評価となるが、内容的にはA評価で良いのではないかと。 達成度の評価基準をA:100%ではなく、もう少し幅を持たせた方が良いのではないかと。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80~99%の達成
C	60~79%の達成
D	40~59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<b>ア【継続】経営感覚を醸成する学習機会の確保</b> ・経営実践プロジェクト学習により生産から、販売を考えた商品設計、営業、納品までの一連の事業活動を学生に体験させ、企画力販売力の向上を図る。併せて学生自ら原価計算、価格設定を行い、売上を把握することによりコスト意識を醸成する。 特別講義 8回 【R6実績：8回】 対象品目 10品目以上 【R6実績：12品目】 新規販路拡大 1か所以上 【R6実績：4カ所】 効果測定アンケートの実施 1回 【R6実績：1回】 ・農業者等が運営している農場等の見学や経営状況を学び、経営理念や経営手法を学ぶ。 先進農業派遣実習の実施 60か所【R6実績：68か所】 先進経営体視察研修の実施 6か所【R6実績：8か所】 ・原則、全学生が取り組めるよう実施体制を整備する。	<b>ア 経営感覚を醸成する学習機会の確保</b> <b>【取組実績】</b> (ア) 特別講義 ・経営における目標設定や事業計画策定の重要性、販売価格の設定や販売戦略の策定の方法を学んだ。 特別講義の実施 8回 (イ) 経営実践プロジェクト対象品目 ・全学科・コースでの取り組みとし、水稻、トマト、ナシ等、農業部8品目、園芸部4品目の計12品目を対象に経営実践プロジェクトに取り組んだ。 対象品目 12品目 (ウ) 新規販路拡大 ・飲食店との販売交渉を行い、スムージーの原料として農大産の規格外のナシを販売できた。 ・これまでの市場出荷から、より高単価での販売を目指し、流通業者との販売交渉を行い、新たな販売先を開拓した。 新規販路拡大 1か所	<b>ア 経営感覚を醸成する学習機会の確保</b> (経営実践プロジェクト学習の実施) ・経営者マインドの醸成につながる重要なカリキュラムであり、今後も力点を置いて継続する。 (先進経営体視察研修の実施) ・学生が幅広い視野と高度な技術・経営能力を学習できるよう、次年度も引き続き積極的に先進事例の研修・訪問等を実施する。	・経営実践プロジェクト学習は県が進めている重要施策である「儲かる農業」の基盤となる重要な取組と認識している。引き続き次年度も継続を願う。

	<p>(エ) 効果測定アンケート：1月下旬に実施</p> <p>(オ) 経営理念や経営手法の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科コース毎に校外学習を計画し、先進経営体の圃場、施設、経営状況を学ぶ機会を確保した。</li> <li>先進農業派遣実習の実施 60か所</li> <li>先進経営体視察研修の実施 9か所</li> </ul> <p>(カ) 実施体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全コース・学科での取り組みとした。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営実践プロジェクト学習や先進農業派遣実習、視察研修により、多くの学生の経営管理への興味を向上させた。</li> </ul>		
--	--	--	--

(2) 新技術や新たな取組に関するカリキュラムの充実

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
ICT 研修会開催 延べ13回以上 ASIAGAP (JGAP に移行予定) の継続認証 4品目 有機農業に関する特別講義開催 2回	A	<p>ICT 研修会開催は目標13回に対し実績13回と、目標を達成できた。また、実習圃場へのICT機器の導入などを行い、学生がICTなどの最新技術を習得する機会の確保に努めた。</p> <p>JGAPについては、農業部では、学生とともに準備を行い、4品目の認証継続を得ることができ、目標を達成できた。また、新規で1品目の認証を取得した。さらに、園芸部において、管理マニュアルの作成作業や事前確認などの準備を進め、次年度の抑制メロンの新規認証に備えた。</p> <p>有機農業に関する特別講義を農業部・園芸部で各1回開催し、また、13名に対し校外学習による視察研修を行うとともに、有機農業に関連する講義の実施や、「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジへの取組などを通じて有機農業に関する学習機会の確保に努めた。</p>	達成度の評価基準と照らし、A評価は適当である。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80~99%の達成
C	60~79%の達成
D	40~59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】ICTなどの最新技術の習得機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新かつより有用な技術について学習させるため、関係機関や民間との協力による講義や実習を実施する。</li> <li>4月~2月、延べ13回以上【R6実績：16回】</li> <li>・実習圃場に導入しているICT機器を活用し、プロジェクト活動等による効果検証を通じて新技術への理解を深める。</li> </ul> <p>イ【拡充】GAPの実践による学習機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農学科・畜産学科においては、JGAP [メロン、ネギ、ナシ、ブド</li> </ul>	<p>ア ICTなどの最新技術の習得機会の確保</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農学科普通作コースで水田自動給水栓、農業用ドローン、園芸部でハウス内環境計測機器などを対象に、最新のシステムとその操作を学んだ。</li> <li>講義や実習の実施：13回</li> <li>・農学科普通作コースで水田自動給水栓、除草ロボ、同果樹コースでAI自動灌水システム、露地野菜コースで環境データ収集装置、畜産科に発情発見器、園芸部でハウス内環境計測機器などの活用方法を学び、技術への理解を深めた。</li> <li>・国補事業を活用し、農業部においてもハウス内環境計測機器を新たに導入した。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTなどの最新技術の習得機会の確保し、学生に最新かつより有用な技術について学ばせた。</li> </ul> <p>イ GAPの実践による学習機会の確保</p> <p>【取組実績】</p>	<p>ア ICTなどの最新技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も最新かつ有用な技術を選定のうえ、計画的に農機メーカー等と連携した実演会を実施するとともに、導入したICT機器を課題解決型学習のテーマとして学生が取り組めるよう誘導する。</li> </ul> <p>イ GAPの実践による学習機会の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業は県の重要施策の柱であり、学生にその旨理解して貰うよう指導を願う。スマート農業に取り組む必要性について出口(所得向上)を意識させるよう学生に指導いただきたい。</li> </ul>

<p>ウ] の農場運営を手本に、新規にクリで認証取得を目指すとともに、全体で GAP の概念を取り入れた実習を実施する。      認証継続4品目 【R6実績：4品目】      新規認証取得 1品目 【R6実績：0品目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園芸学科においては、品目の選定など JGAP 新規認証取得にむけ書類整備などの準備をすすめる。＜拡充・新規＞        認証取得に向けた取り組み品目（抑制メロン）</li> </ul> <p>ウ【継続】有機農業に関する学習機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境や持続性に配慮した農業について理解を深めるため、特別講義を開催する。2回 【R6実績：1回】</li> <li>有機農業の実態について理解を深めるため、校外学習を実施する。2回 【R6実績：2回】</li> <li>R6 年度に新設した有機農業概論をはじめ、土壌肥料学、農業機械学、植物病理昆虫学などの講義で有機農業に必要な栽培技術を学ぶ。</li> <li>農林水産省の「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジに組み、生産力向上と持続性の両立を実現するための方策を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業部          JAGAP の認証を申請するために、5品目で引き続き GAP の概念にそった実習を行った。</li> <li>園芸部          抑制メロンを対象に新規認証取得に向けて事前確認や書類整備などの準備をすすめた。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GAP の認証継続・新規認証に向けての活動を行うことにより、GAP についての理解を深めることができた。</li> </ul> <p>ウ 有機農業に関する学習機会の確保</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業についての特別講義を2回（農業部 7/22、園芸部 1/20）、校外学習を4回行った。</li> <li>講義における栽培技術の学習          有機農業概論、土壌肥料学、農業機械学、植物病理昆虫学などの講義で有機農業に必要な栽培技術を学習している。</li> <li>「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジへの取組          農業部4グループ、園芸部1グループで「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジに取り組んだ。</li> <li>水稻における除草ロボットやナシの白紋羽病治療用温水点滴処理機（R7）を導入し、化学農薬を使用しない環境負荷の少ない防除技術を学ばせている。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業についての理解を深めることができた。</li> <li>有機農業に取り組む農業法人で長期派遣研修を実施した学生は6名、さらにその研修先に就職を決めた学生は2名であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農学科では引き続き、講義、農学科全体で JGAP の概念を取り入れた実習を継続する。          園芸学科でも、引き続き令和8年度認証取得を目指し、GAP の考え方を取り入れた実習活動を実施する。</li> </ul> <p>ウ 有機農業に関する学習機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業を学ぶ講座による学習とともに、引き続き視察等により実践経営体の実例を直接学ぶ機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業は県の重要施策の柱であり、学生にその旨理解して貰うよう指導を願う。有機農業に取り組む必要性について出口（所得向上）を意識させるよう学生に指導いただきたい。</li> </ul>
---	--	--	---